

仕上げ塗りの要領と注意点

粉末タイプ〈NSR〉〈NSZ〉〈NZ〉

主な仕上げ方

しっくい風仕上げ〈NSR〉

追っかけ2度塗りで施工し、水引き加減を見て（材料の粘つきがなくなり、コテで押さえても水が浮いてこない状態にまで乾燥が進んだ段階で）プラスチックゴテで真横に押さえてください。しっくい風の平滑な肌に仕上がります。

※コテ押さえのタイミングが遅すぎると押さえきれません。また、早すぎた場合は、表面に水が浮いてテカる恐れがありますのでご注意ください。

※コテ押さえの際には、コテについた水分をきれいな布でぬぐいながら押さえてください。

※下塗りの際は、横方向・縦方向にコテを動かして平らな下塗り面をつくっておくことがポイントです。

※追っかけ2度塗りの2回目の上塗りは、コテ波を残さないようていねいに塗りつけておくことがポイントです。

※金ゴテでコテ押さえをしないでください。金属粉が仕上げ面に付着して黒ずみます。

一方向の照明下では、凹みやコテ波を見落とすことが多いです。ライトを上下左右に動かすと、凹みやコテ波を見つけることができます。



コテ押さえ仕上げ〈NSZ〉〈NZ〉

〈NSZ〉〈NZ〉を、上記『しっくい風仕上げ』の要領で施工しますと、コテ押さえの際に顆粒がこがり、右写真のような虫食い状の平滑面に仕上がります。なお、追っかけ2度塗りの2回目の塗り厚が厚いと、顆粒のこがりは少なくなります。

※仕上げの注意点は上記『しっくい風仕上げ』と同じです。



クシ引き仕上げ〈NSZ〉〈NZ〉

ワイヤーブラシによるクシ引き仕上げは、5mm厚に塗りつけてください。

※仕上げ材を厚塗りするために凸部がテカる可能性が高くなります。クシ引きを行う前にスタイロフォームで表面を荒らしておくとテカリが目立ちにくくなります。

※塗り厚が薄すぎると、顆粒が落ちる場合があります。



▲ワイヤーブラシ



その他（参考例）



金ゴテ引きずり仕上げ(NSR)



木ゴテ引きずり仕上げ(NSR)



角ゴテランダム仕上げ(NSZ)



スタイロ荒らし仕上げ(NZ)

商品の取り扱いはありません

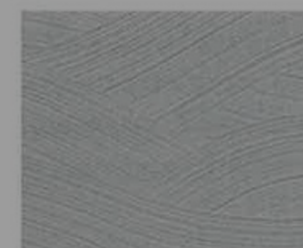
ペーストタイプ〈PS〉〈PZ〉

主な仕上げ方

〈ペーストタイプ〉は、コテ押さえのタイミングが難しく、平滑な仕上げには向きません。ステンレスゴテや木ゴテによる引きずり仕上げやラフ仕上げ、クシ目ゴテや波目コテなどを使ったパターン付け仕上げなどをおすすめします。



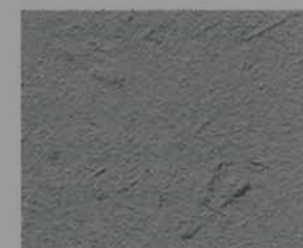
塗り放し仕上げ(PZ)



ホウキ仕上げ(PS)



木ゴテ引きずり(PZ)



ワラ入り仕上げ(PZ)

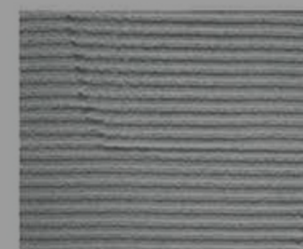
※あらかじめワラの入った製品はありません。



コテ先波仕上げ(PS)



金ゴテ引きずり仕上げ(PS)



クシ目ゴテ仕上げ(PZ)



うろこ仕上げ(PZ)

仕上げ塗りの基本=『追っかけ2度塗り』について

※2回目の上塗りのタイミングが遅すぎると、気泡が出たり、硬化不良（ドライアウト）の原因になったりする場合があります。

※水引きが始まってからもコテでならした場合、色ムラやササクレの原因となりますのでご注意ください。

※仕上材の塗り厚が薄すぎた場合、結露防止等の機能が落ちるだけでなく、硬化不良（ドライアウト）を起こして粉っぽい仕上がりになりますのでご注意ください。

※ペーストタイプは接着力が強いので、1回塗りで仕上げることもできますが、下地から気泡が出る場合は、追っかけ2度塗りで気泡を抑えて仕上げてください。また、顆粒入りの〈PZ〉を均一な厚みに施工する場合は追っかけ2度塗りを推奨いたします。

水引きをおくらせたいとき

粉末タイプで仕上げる際、施工面積が広い場合や水引きが早くて施工しづらいとき（夏季など）は、仕上材の1回目の塗りに使用する材料に、粉つまた（海藻のり）かメトロースを加えていただいてもかまいません。

※練り置きをせずに施工すると材料のしまりが早くなってしまいますので、必ず練り置きをし、再度練り直してから仕上げ塗りをしてください。

乾燥までは、室内の湿度にご配慮ください。

仕上げ塗り完了後、4～5日間は、室内が多湿状況にならないよう換気を心がけてください。乾燥までに多湿状況がつづくとき色ムラが起こる場合があります。